

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.23 (1997.4.30号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1997.6.9. ; 8,[3]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

被災地への文通の輪を広げよう

カンパのお礼に「みちのく銀行」東京支店を訪れた時の新聞取材が全国版となり、今全国各地から被災地との文通の手紙が協会に届き、改めて反響の大きさに驚いています。

避難所・仮設が統廃合され、5年後、10年後には、一人暮らしの高令者・障害者が被災地に散住することになります。

全国から1万通の文通の手紙を集め、被災地の小中学校に、‘ボランティアサークルを作って子供たちが地元のお年寄りや体の不自由な方を訪ねる’よう、呼びかけていきます。被災した子供たちも又、語るすべも持てぬまま、心に深い傷を負って生活しています。お年寄りが子供たちに夢を託し、子供たちが人生の先輩ともいえるお年寄りから生きる知恵を得て、お互いが心の傷をいやすことができれば、次代にもいいつながりができ、5年後、10年後の被災地の復興にもつながっていきます。

この1月にはサークルも作って文通を続けている、松原第三中学が春休みも、手紙を携えて仮設を訪問しました。全国からも続々と手紙が届いています。コリアボランティア協会は、外部団体が全て去った4月より「長田出張所」をおき、又支援活動が続けるため、全国巡回チャリティ美術展を開催し、被災地の状況を知らせるパネル展示と、会期中、地元の小中学校に文通を呼びかけていきます。ぜひ皆様からのカンパ・ボランティア協力お願いします。

(鄭チョン)

※折込の関連記事もお読み下さい。

[記事あり 支え合うつながり築きたい<神戸新聞'97.3.27> 省略]

[記事あり 文通<高知新聞'97.3.31> 省略]

[記事あり 遠方でもできるボランティア<読売新聞'97.3.23> 省略]

[記事あり 被災地に"孫"の励ましを<'97.3.28> 省略]

[写真あり 仮設の方の入院先を訪問 省略]

街のかお布施・ツルハシde震災支援カンパ

そういうわけで街頭募金活動はまだまだ続くわけです。

いまでもやっているのですか。街頭カンパ。いえ、いえ、今だからやっているのであります。最近顔見知りもふえ、アメちゃんくれたり、カンジューズくれたり、あるくつ屋さんから「バザーなんかで売って」と何十足もくつをくれたり。うれし〜い人の心！を感じながら、声をはり上げ、やっているのであります。いつもカンパを下さった方へは、協会ニュースをさし上げています。ある日「友だちからそれを見せられ、カンパに来ました。」という男性。うれし〜い。 冬から春へ、被災地にもあたたかな春がやってきました。心の春は?!
さて、また出かけましょうか!!

よき日のためにまだまだ街頭募金活動は続くわけです。

(c)1997コリアボランティア協会編集部(デジタル化：神戸大学附属図書館)